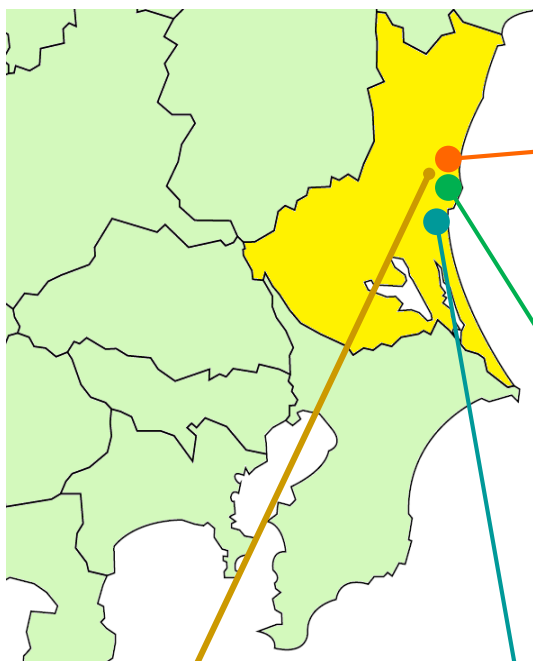


原子力科学研究所の概要

令和4年5月27日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
原子力科学研究所



原子力科学研究所 (943人)

福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた研究、
原子力基礎・基盤研究、先端基礎研究、物質科学研究、
原子力安全研究、バックエンド研究



J-ARCセンター (116人)



本部 (289人)

法人の運営管理、事業推進に係る中核的機能(機能の一部は各地区に駐在として配置)



核燃料サイクル工学研究所 (613人)

福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた研究
再処理技術開発
プルトニウム燃料製造技術開発
放射性廃棄物処理・処分技術研究開発



大洗研究所 (486人)

福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた研究
高速炉サイクル技術に関する研究開発
高温ガス炉とこれによる熱利用技術の研究開発等



原子力科学研究所概要



- 福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた研究活動
- 我が国の原子力利用と科学技術を支える研究活動
 - ・原子力安全研究、核不拡散・核セキュリティに資する活動
 - ・原子力基礎・基盤研究
 - ・先端原子力科学研究
 - ・物質科学研究
 - ・大型研究施設の運転及び関連する技術開発
 - ・施設等の廃止措置、放射性廃棄物の処理・処分及び関連する技術開発

原子力分野の人材育成
原子力人材育成センター

研究開発の基盤である施設群

- ・研究炉 (JRR-3、NSRR)
- ・臨界実験装置 (STACY)
- ・加速器施設 (J-PARC、タンデム)
- ・核燃料物質使用施設
(RFEF、WASTEF、BECKY)
- ・スーパーコンピュータ

原子力科学研究所内の主な施設

<p>研究炉</p>	<p>JRR-3(中性子ビーム利用、照射利用) NSRR; 原子炉安全性研究炉(安全研究)</p>		<p>JRR-3</p>
<p>臨界実験装置</p>	<p>STACY; 定常臨界実験装置(安全研究)</p>		<p>NSRR</p>
<p>核燃料物質使用施設</p>	<p>燃料試験施設、WASTEF、NUCEF (BECKY) 第4研究棟</p>		<p>BECKY</p>
<p>加速器・RI施設</p>	<p>J-PARC、タンデム加速器(先端基礎研究) FRS(放射線管理:放射線校正場)</p>		
<p>大型コールド施設</p>	<p>CIGMA; 大型格納容器実験装置(安全研究) LSTF; 大型非定常試験装置(安全研究)</p>	<p>燃料試験施設</p>	<p>CIGMA</p>
<p>廃棄物処理施設</p>	<p>高減容処理施設(解体分別保管棟、減容処理棟)</p>	<p>LSTF</p>	<p>減容処理棟</p>
<p>スーパーコンピュータ</p>	<p>HPE SGI 8600(処理能力(理論): 12.6PFLOPS)</p>		<p>スーパーコンピュータ</p>

燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF) は、STACY施設、TRACY施設、バックエンド研究施設から成り、臨界安全研究、再処理、廃棄物処分等に関する研究を進めるとともに、産業界、関連研究機関、大学、IAEAなどと協力して、国内外の情報の共有・普及と人材の育成を図っている。

- STACY施設

溶液燃料を用いる臨界実験装置 から 固体燃料を用いる臨界実験装置へ改造

⇒ STACY固体系装置への改造に係る変更申請 (H23.2申請、H30.1許可)

- TRACY施設

TRACY施設の廃止措置

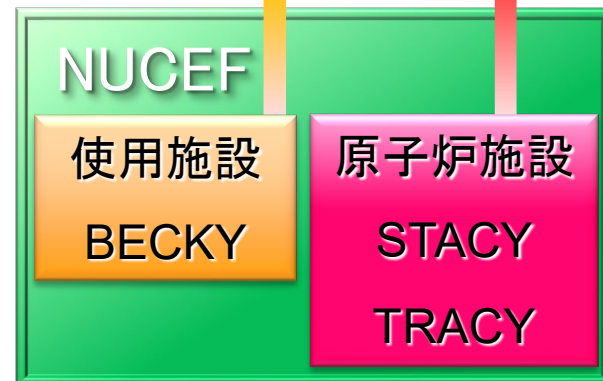
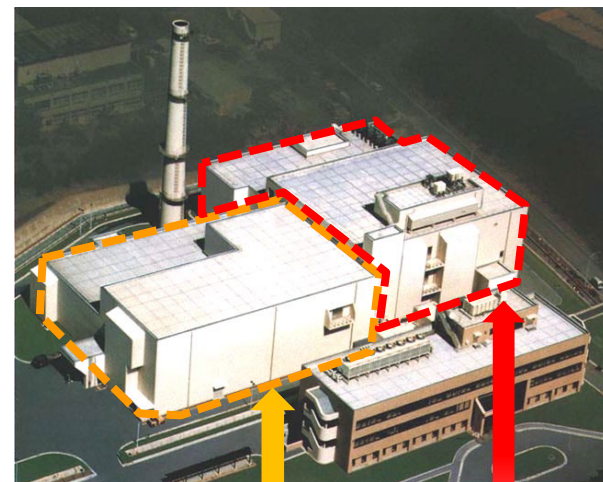
⇒ TRACY廃止措置計画の認可申請 (H27.3申請、H29.6認可、R2.6変更申請、R3.6認可)

- バックエンド研究施設 (BECKY)

⇒ 空気雰囲気コンクリートセル及び不活性雰囲気鉄セルによるホット試験

⇒ グローブボックス (30基) 及びフード (20基) によるホット試験

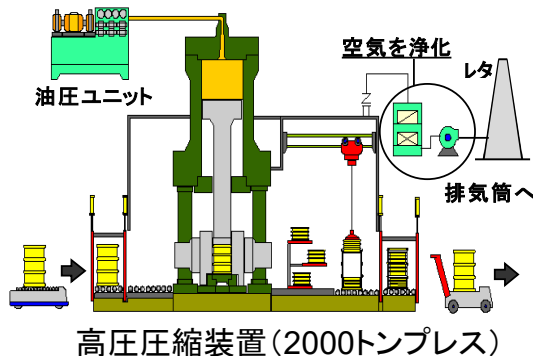
⇒ 研究部門が行う研究を支援 (研究テーマ: 分離プロセス、TRU高温化学、放射性廃棄物処分、アクティブ中性子非破壊測定)



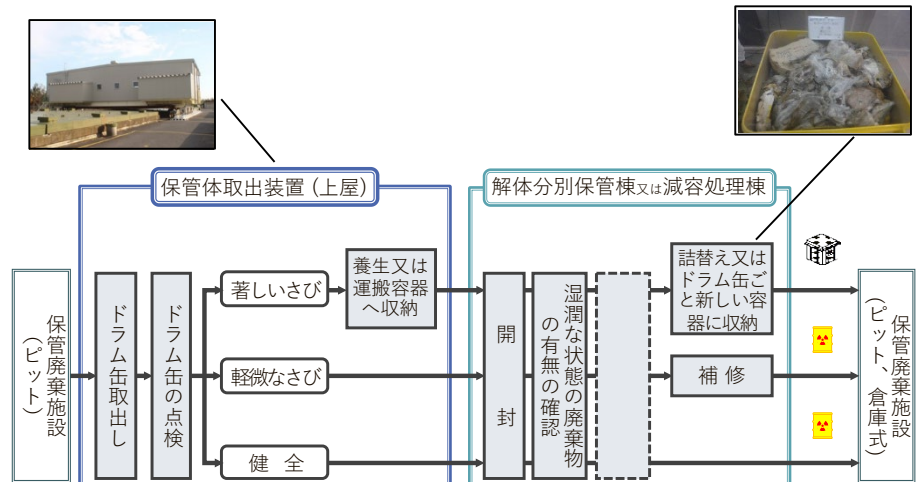
主な計画

- 放射性廃棄物処理場については、新規基準に基づく「原子炉設置変更許可」、「設計及び工事の計画の認可」対応並びに建家の耐震補強工事等を実施し、早期の適合性確認を目指す。
- 長期に亘って放射性廃棄物を保管廃棄している保管体(ドラム缶)の健全性確認(令和5年度完了目標)などを計画的に進める。(令和4年度計画 優先度区分A:3,565本 優先度区分B:4,870本)
- 高減容処理施設については、前処理及び高圧圧縮処理により放射性廃棄物の減容を実施する。(令和4年度計画 約500本処理予定)
- 日本アイソトープ協会から受託して保管している廃棄物については、平成25年度から開始した同協会への返却を継続する。(令和4年度計画 1,091本返却予定)

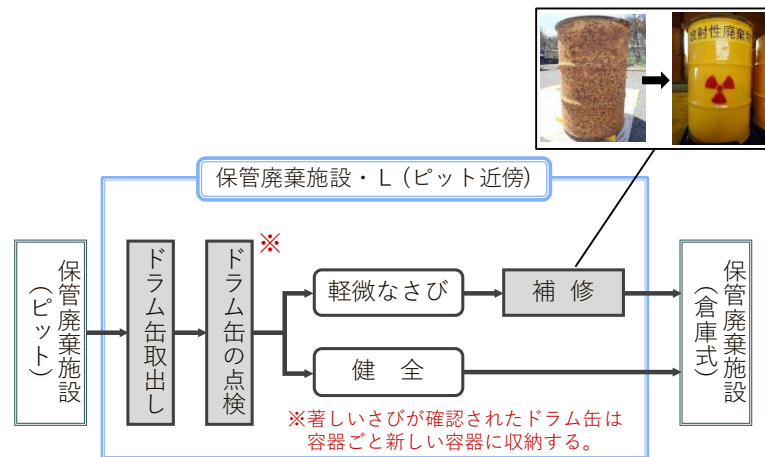
【放射性廃棄物の減容】



【ドラム缶の健全性確認】



優先度区分Aのドラム缶の健全性確認作業フロー



優先度区分Bのドラム缶の健全性確認作業フロー

原子炉設置変更許可申請に係る施設

- 原子力科学研究所の放射性廃棄物処理場については、第2廃棄物処理棟の液体廃棄物の廃棄施設であるアスファルト固化装置等を使用停止とし、第3廃棄物処理棟における受入・処理対象液体廃棄物の放射能濃度を変更する原子炉設置変更許可申請中(令和3年12月10日申請、令和4年5月補正申請予定)

【第2廃棄物処理棟】

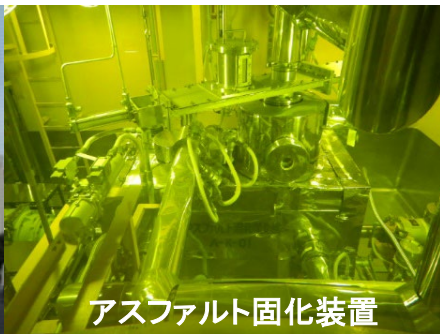
設置年度:昭和55年度

目的:液体廃棄物の蒸発濃縮・アスファルト固化処理
固体廃棄物の圧縮・封入処理

主要設備:廃液貯槽・Ⅱ-2(使用停止)
蒸発処理装置・Ⅱ(使用停止)
アスファルト固化装置(使用停止)
固体廃棄物処理設備・Ⅱ



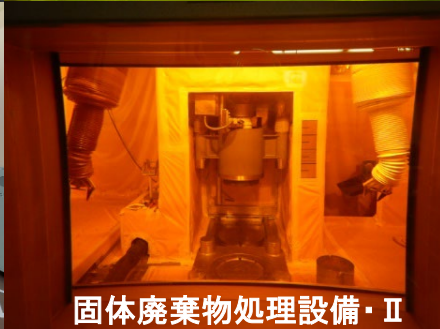
建家外観



アスファルト固化装置



中央監視室(操作エリア)



固体廃棄物処理設備・Ⅱ

【第3廃棄物処理棟】

設置年度:平成10年度

目的:液体廃棄物の蒸発濃縮・セメント固化処理

主要設備:廃液貯槽・Ⅰ
処理済廃液貯槽
蒸発処理装置・Ⅰ
セメント固化装置



建家外観



蒸発処理装置・Ⅰ(蒸発缶)

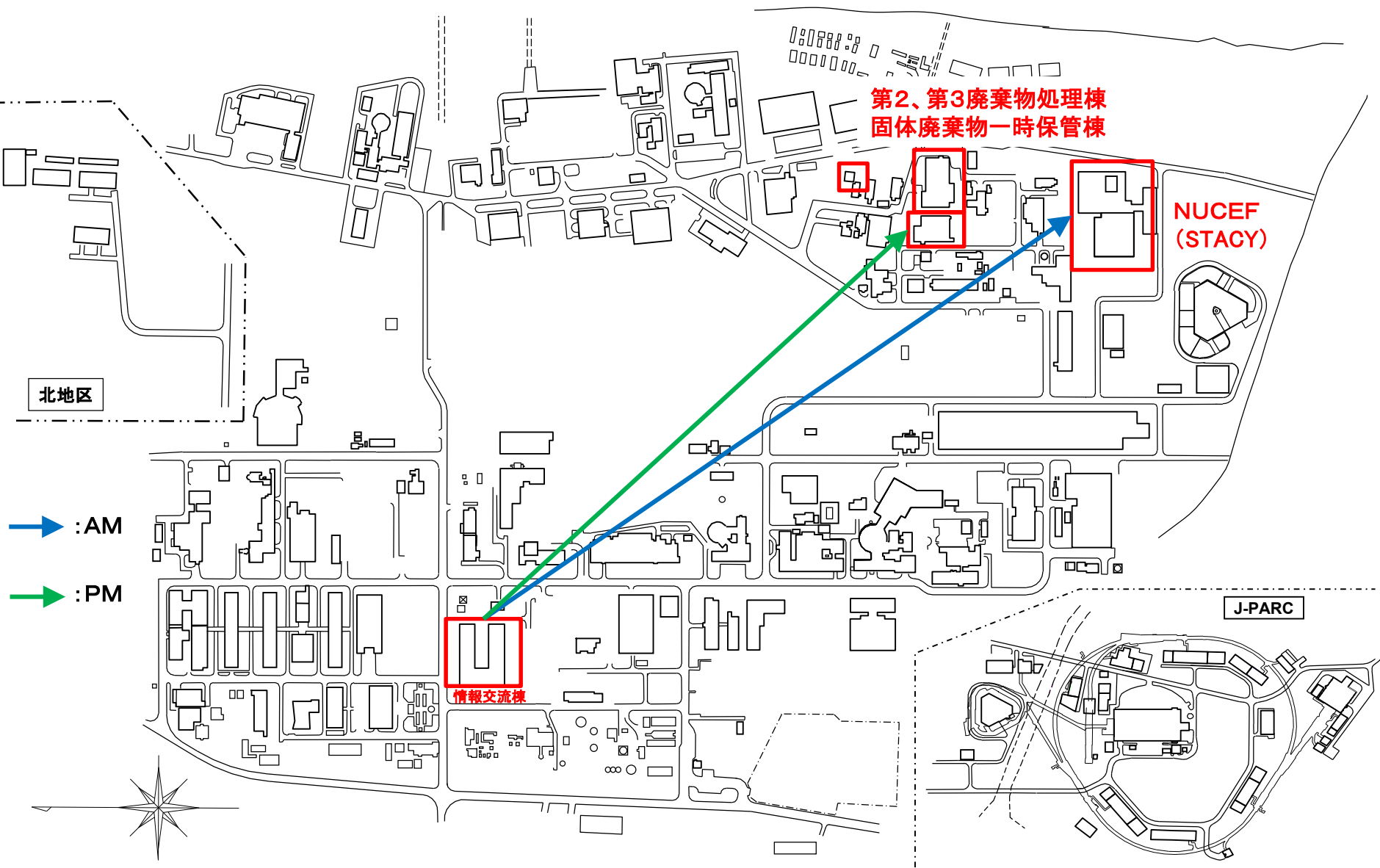


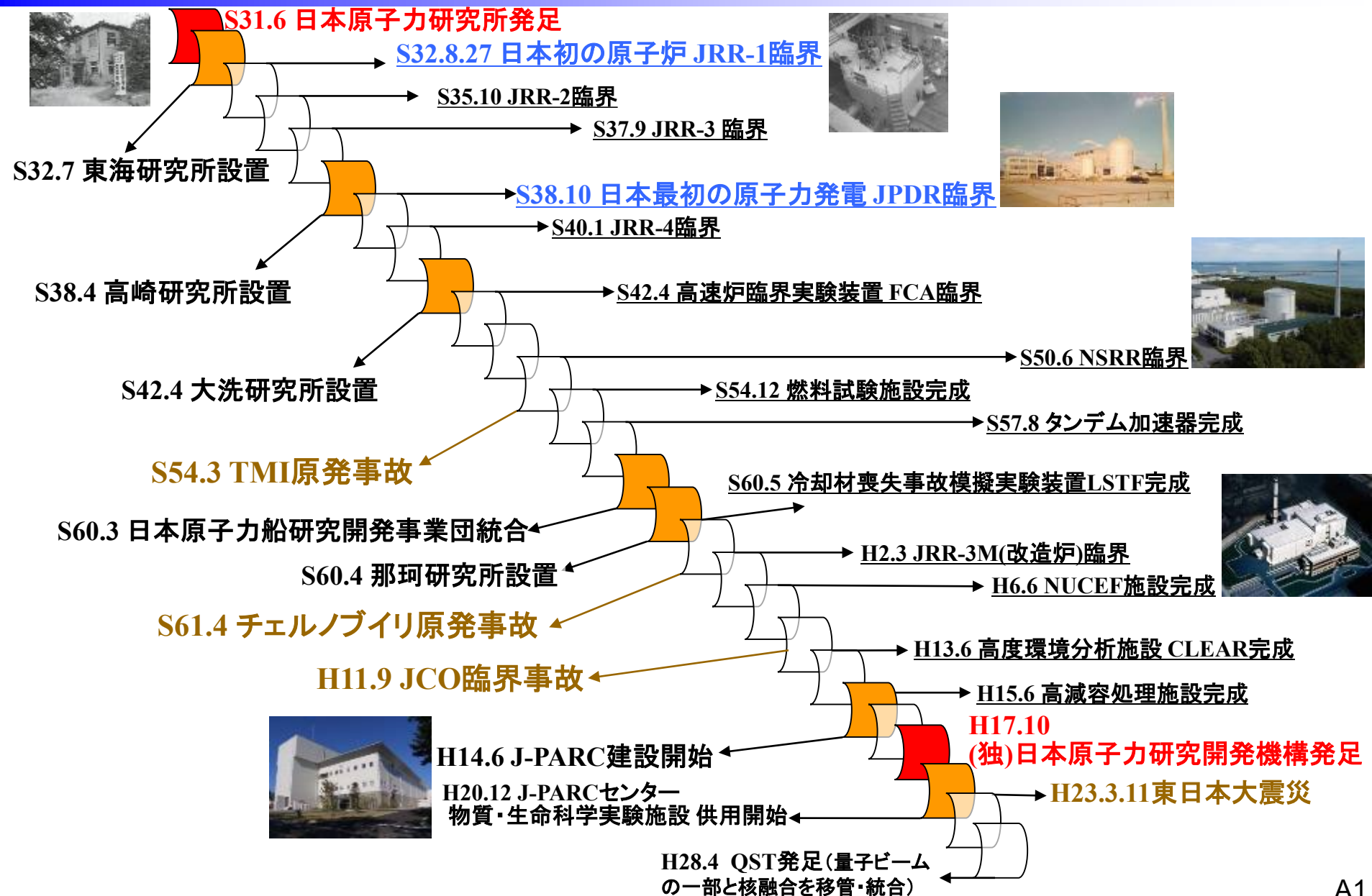
セメント固化装置(混練用ミキサ)



セメント固化装置(ドラム話装置)

現地確認ルート





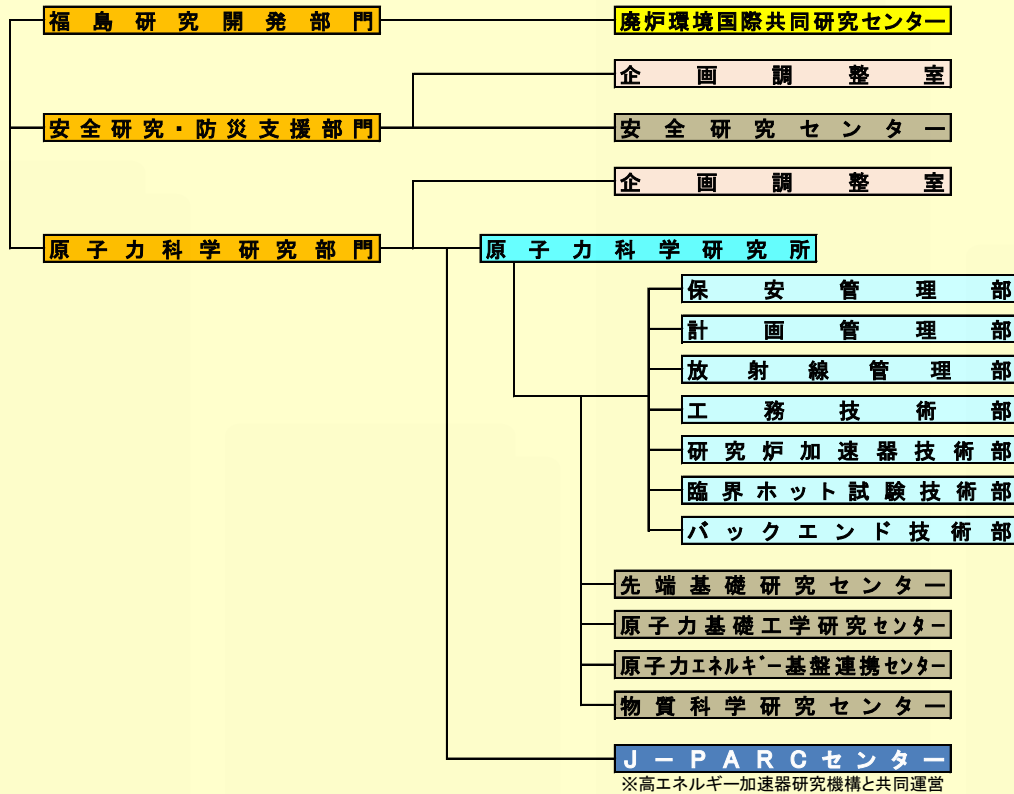
原子力科学研究所の組織

原子力科学研究所を主な拠点として活動する組織

令和4年4月1日現在

監事

理事長
副理事長
理事



運営管理組織、共通事業組織

JAEA イノベーションハブ

建設部

システム計算科学センター

原子力人材育成センター

核不拡散・核セキュリティ総合支援センター



別表1 施設の集約化・重点化計画 参考

一継続利用施設、廃止施設【全原子力施設マップ】一

継続利用施設

廃止施設

□ : 主要な研究開発施設

□ : 小規模研究開発施設(維持管理費<約0.5億円/年)及び拠点運営のために必要な施設(廃棄物管理、放射線管理等)

□ : 廃止措置中/計画中の施設

■ : 廃止措置が終了した施設(施設中長期計画策定(H29.4)以降に廃止措置が終了した施設)

□ : 継続利用施設であるが、施設の一部を廃止する施設

令和3年4月1日現在

	継続利用施設(46施設)*1				廃止施設(44施設)*1(廃止措置中及び計画中のものを含む)*2				
	原科研	核サ研	大洗研	その他	敦賀	原科研	核サ研	大洗研	その他
原子炉施設	JRR-3 原子炉安全性研究炉(NSRR) 定常臨界実験装置(STACY) 放射線廃棄物処理場		常陽 高温工学試験研究炉(HTR)		ふげん もんじゅ	高速炉臨界実験装置(FCA) 軽水臨界実験装置(TCA) 過渡臨界実験装置(TRACY) JRR-2 JRR-4		材料試験炉(JMTR) 重水臨界実験装置(DCA)	青)関根施設(むつ)
核燃料使用施設	燃料試験施設(RFEF) バックエンド研究施設(BECKY) 廃棄物安全試験施設(WASTEF) ホットラボ(核燃料物質保管部)	Pu燃料第一開発室(Pu-1) Pu燃料第三開発室(Pu-3) Pu廃棄物処理開発施設(PWTF) 第2Pu廃棄物貯蔵施設(第2PWSF) M棟 ウラン廃棄物処理施設(焼却施設、UWSF、第2UWSF)	照射装置組立検査施設(IRAF) 照射燃料集集体試験施設(FMF) 固体廃棄物前処理施設(WDF)	人)廃棄物処理施設		Pu研究1棟 ホットラボ(解体部) 放射線廃棄物処理場の一部(汚染除去場、液体処理場、圧縮処理施設)	高レベル放射性物質研究施設(CPF) J棟 Pu燃料第二開発室(Pu-2) B棟 Pu廃棄物貯蔵施設(PWSF)	照射材料試験施設(MMF) 第2照射材料試験施設(MMF-2)(核燃部分を廃止) 照射燃料試験施設(AGF) JMTRホットラボ 燃料研究棟	人)製錬転換施設 人)濃縮工学施設
	政令41条非該当	タンDEM加速器建家 第4研究棟 高度環境分析研究棟 放射線標準施設 JRR-3実験利用棟(第2棟) RI製造棟	安全管理棟 放射線保健室 計測機器校正室 洗濯場	安全管理棟 放射線管理棟 環境監視棟	人)開発試験棟 人)解体物管理施設(旧製錬所) 青)大湊施設研究棟		トリウムプロセス研究棟(TPL) バックエンド技術開発建家 核融合中性子源施設(FNS)建家 再処理特別研究棟 JRR-1残存施設 核燃料倉庫 保障措置技術開発試験室 ウラン濃縮研究棟 原子炉特研(核燃料使用施設)	東海地区ウラン濃縮施設(第2U貯蔵庫、廃水処理室、廃油保管庫、L棟) 応用試験棟 燃料製造機器試験室 A棟	Na分析室 燃料溶融試験材料保管室(NUSF)
再処理施設							東海再処理施設 リスク低減や今後廃止措置に必要な施設等は当面利用する。(TVF、処理施設(AA、F、E、Z、C)、貯蔵施設、等)		
その他加工、RI廃棄物管理施設等	リニアック建家 FEL研究棟 大型非定常ループ実験棟 第2研究棟 原子炉特研(RI使用施設)*1	地層処分放射化学研究施設(QUALITY)	第2照射材料試験施設(MMF-2)(RI使用施設として活用) 廃棄物管理施設	東濃)土岐地球年代学研究所 人)総合管理棟・校正室	重水精製建屋	環境シミュレーション実験棟			人)ウラン濃縮原型プラント

*1: 現時点での施設数(平成29年4月策定時の継続利用施設数45施設に、原子炉特研(RI使用施設)(平成30年に核燃料使用施設として廃止措置終了後にRI施設として継続)を追加し46施設となっている。)

*2: 一部の廃止施設は、廃棄物処理や外部ニーズ対応等の活用後に廃止。

人): 人形峠環境技術センター
青): 青森研究開発センター
東濃): 東濃地科学センター



J-PARCは高エネルギー加速器
研究機構(KEK)と共同運営



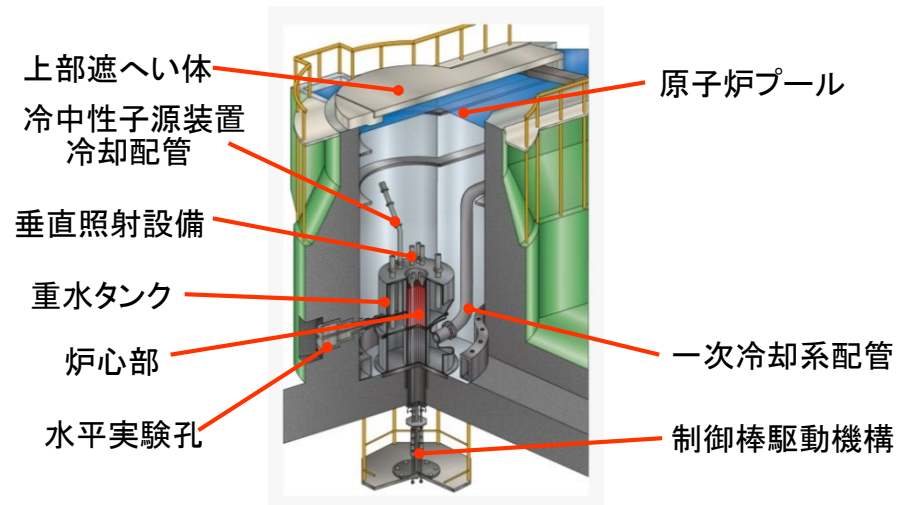
施設名 (運転開始)	施設の概要	再開時期 (予定)
HTTR (H10.11)	多様な産業利用が見込まれる 高温ガス炉	令和3年7月 再開 稼働中
STACY (H7.2)	臨界安全研究のための臨界 実験装置	令和4年度 平成30年1月 設置変更許可
旧JRR-3 (S37.9) JRR-3 (H2.3)	炉心内での照射実験と炉心外で の中性子ビーム利用実験	令和3年2月 再開 稼働中
常陽 (S52.4)	我が国初の高速増殖炉の 実験炉	設置変更許可 審査中
NSRR (S50.6)	原子炉暴走事故(反応度事故)を 模擬したパルス運転	令和2年3月 再開 稼働中
タンデム 加速器 (S57.4)	世界有数の大型静電加速器	稼働中
J-PARC (H20.4)	世界最大強度のパルス中性子源 を有する大強度陽子加速器施設	稼働中
SPring-8 (H9.10)	世界最高性能の放射光を生み出 すことができる大型放射光施設	稼働中

JRR-3 (研究用原子炉)

参考

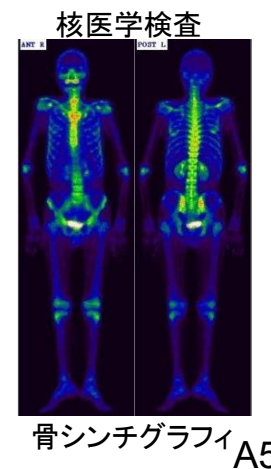
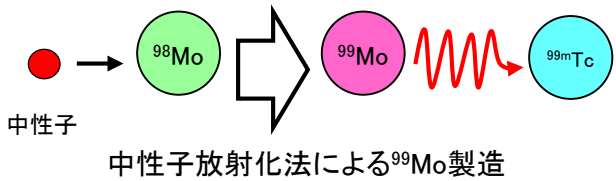
世界トップレベルの高性能研究炉として中性子ビーム実験 (中性子ラジオグラフィ、中性子散乱実験、即発ガンマ線分析) や中性子照射 (ラジオアイソトープの製造) に利用されています。

昭和37年 国産原子炉として臨界
 昭和60年 高性能化のための改造工事開始
 平成2年3月 改造炉臨界
 令和3年2月 運転再開



JRR-3の仕様	
目的	ビーム実験、燃料材料照射、放射化分析、RI生産 (^{198}Au 、 ^{192}Ir 、 ^{60}Co) 等
型式	濃縮ウラン軽水減速冷却プール型
燃料要素	低濃縮ウランシリコンアルミニウム分散型燃料
最大熱出力	2万kW
最大熱中性子束	約 3×10^{18} n/m ² ·s
炉心の形状等	円柱 (直径: 60cm、高さ: 75cm)
運転形態	サイクル運転 (26日連続/cy: 6~7cy/年)

(外部利用の拡大、成果創出に期待)
 例: 医療分野への適用拡大
 放射性医薬品として核医学の分野で最も多く用いられているテクネチウム-99m ($^{99\text{m}}\text{Tc}$) の親核種であるモリブデン-99 (^{99}Mo) の製造に用いることが可能。



◆ NSRRの目的

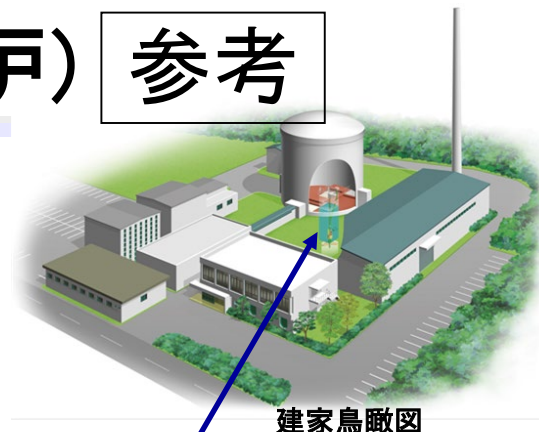
- 実験燃料棒に高い出力をパルス状に加える運転(パルス運転)を行うことで、原子力発電所の事故時に原子炉内の燃料が破損する条件や破損のメカニズムなどを実験的に研究するための原子炉

【NSRRの諸元】

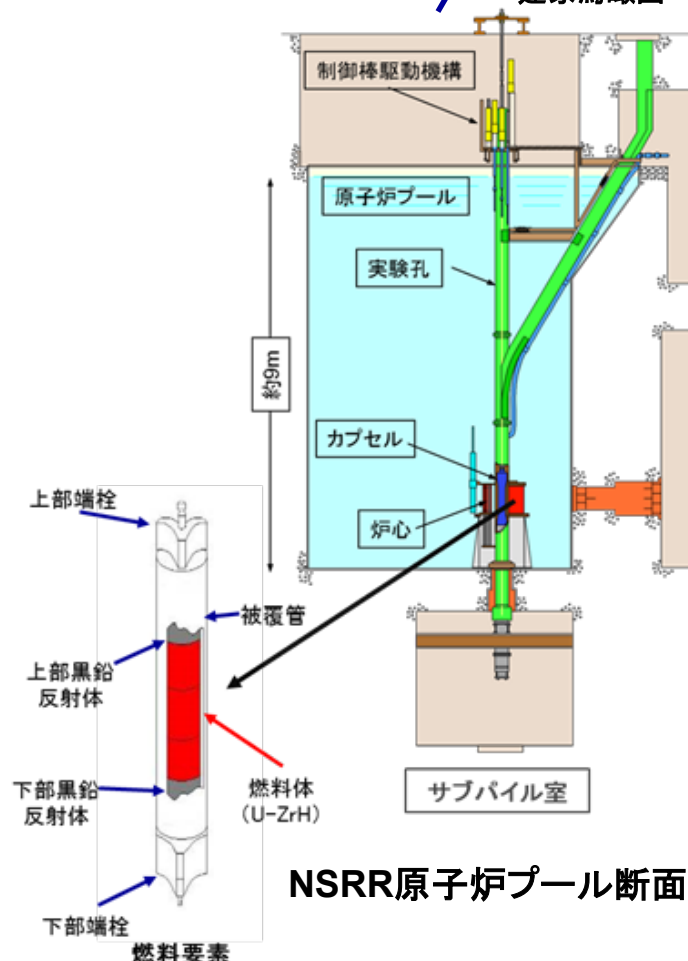
炉型	濃縮ウラン燃料水素化ジルコニウム減速非均質型原子炉
臨界年月日	昭和50年6月15日
最大熱出力	300kW(定出力運転) 2,300万kW(パルス運転) (=23,000MW)
炉心形状・大きさ	円柱型 ・等価直径 約63cm ・有効高さ 約38cm
制御棒	安全棒(2本)、調整棒(6本)、調整用トランジェント棒(1本)、高速トランジェント棒(2本)
燃料	TRIGA燃料:濃縮ウラン-水素化ジルコニウム合金(U-ZrH)、ウラン濃縮度約20wt%
冷却材	軽水(自然冷却)
運転形態	短時間の運転(デイリー運転)

今後は、原子炉の反応度事故時の燃料のふるまいを調べる実験、東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所の事故のようなシビアアクシデントの際に燃料に生じる変化等を把握するための実験、NSRR運転実習による人材育成等を通して、原子力の更なる安全性向上に貢献します。

また、実験で得られた研究成果を原子力機構の報告書や学術論文として社会に発信するとともに、原子炉施設の安全規制を支援することで、原子力技術の発展に貢献します。



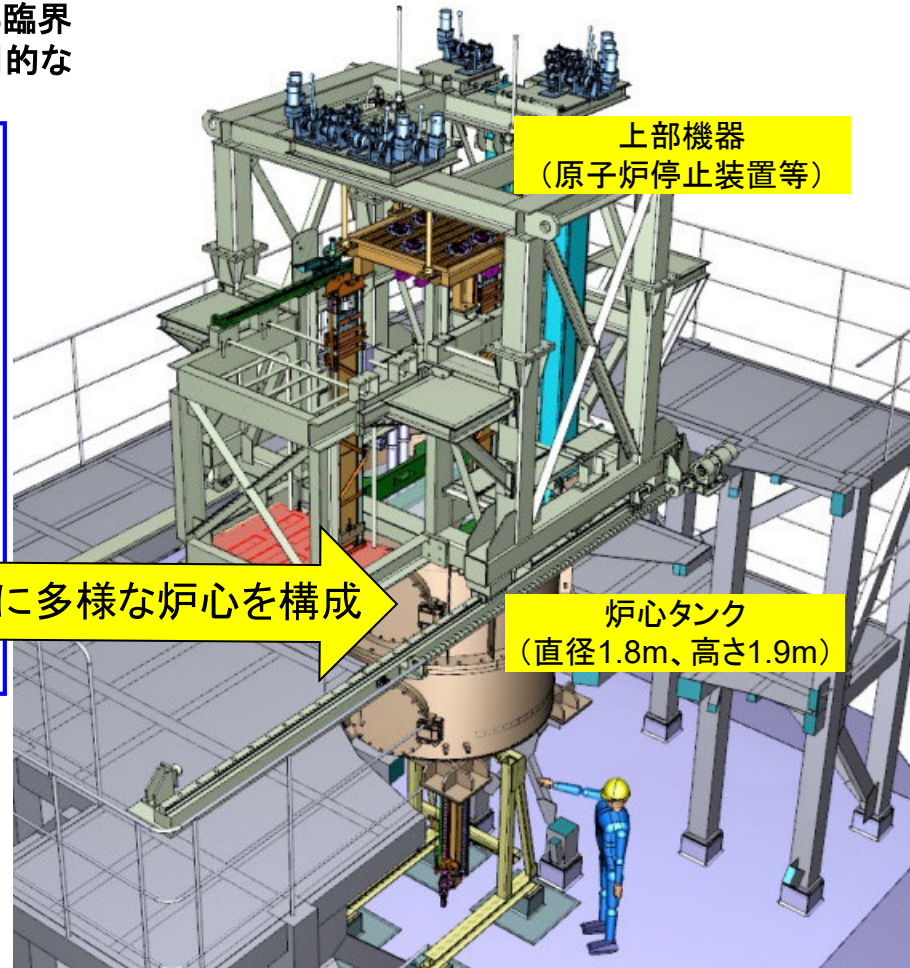
建家鳥瞰図



NSRR原子炉プール断面図

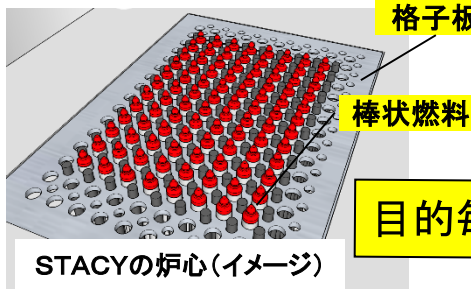
～炉物理研究・人材育成のための臨界実験装置～

定常臨界実験装置 (STACY) (熱出力200W) を、溶液燃料を用いる臨界実験装置から、固体燃料と水減速材を使用する基礎的かつ汎用的な熱中性子体系臨界実験装置へと更新し、研究、実習に幅広く活用



STACYの多目的活用

- ・原子炉施設、核燃料サイクル施設の臨界基礎データ収集
- ・炉物理教育 (人材育成)



STACYの炉心 (イメージ)

目的毎に多様な炉心を構成

上部機器
(原子炉停止装置等)

炉心タンク
(直径1.8m、高さ1.9m)

研究者

学生・実習者

産業界等

新規制基準対応状況

- 設置変更許可: 平成30年1月取得
- 更新工事: 平成30年3月着工
- 設工認: 8件申請とし、全ての認可を受け、工事に着手済み。
- 使用前 (事業者) 検査: 運転開始時にまとめて合格取得予定 (令和6年目処)

STACY完成予想図